

第245回原医研セミナー

第10回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2023年6月27日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：818 8491 3226

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/81884913226?pwd=a25teTY4Myt1dDYrTmgxbkd1S1BNZz09>

Zoom パスワード：471640（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：Alvocidib inhibits IRF4 expression via super-enhancer suppression and adult T-cell leukemia/lymphoma cell growth

発表者：長崎大学 病院 血液内科

坂本光先生, 安東恒史先生, 今泉芳孝先生, 三嶋博之先生, 木下晃先生,
小林裕児先生, 北之園英明先生, 加藤丈晴先生, 澤山靖先生, 佐藤信也先生,
波多智子先生, 中島正洋先生, 吉浦孝一郎先生, 宮崎泰司先生

近年、成人 T 細胞白血病（ATL）を含む様々な悪性腫瘍において Super-enhancer (SE) が腫瘍特異的遺伝子発現調節に重要な役割を果たすことが報告され、SE は治療標的の候補として注目されている。Cyclin-dependent kinase (CDK) 9 は SE 構成蛋白の一つであり、SE を介した遺伝子の発現制御に関与している。Alvocidib は CDK9 阻害薬の一つで、SE 機能抑制を通じて腫瘍特異的遺伝子の発現を抑制し、抗腫瘍効果を発揮することが期待されている。今回我々は、alvocidib の ATL に対する増殖抑制効果を検討した。その結果、alvocidib は SE を介して IRF4 発現を抑制し、ATL 細胞の増殖を抑制する可能性が示された。Alvocidib は患者由来の ATL 細胞および ATL マウスモデルにおいても細胞増殖抑制効果を示し、本研究の結果から ATL 患者への alvocidib の臨床応用が期待される。

**タイトル：福島第一原子力発電所事故後のアルコール関連疾患を伴う災害関連死：
ケースシリーズ**

**発表者：福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター 放射線健康管理学講座
北澤賢明先生, 澤野豊明先生, 坪倉正治先生**

放射線災害時、アルコール性疾患で死亡した方の経緯については、明らかでない点が多くある。本研究は、福島第一原子力発電所事故後、アルコール性疾患で死亡した方々がどのような過程で亡くなるに至ったかを明らかにすることを目的とする。

福島県南相馬市において災害関連死認定をされているケースのうちアルコール関連疾患を有していた6名について死因や死亡時期によって分類し、ケースシリーズとしてまとめた。6名の特徴として、もとよりアルコールに関連した疾患に対する治療を行っていたということがいえた。発災後、病院閉鎖のため避難を余儀なくされ、その後入退院を繰り返す中で疾患が悪化したケースや、避難後自宅に戻った後、不眠と食欲低下により薬や飲酒の増加がみられ、うつ病が悪化したケースがあった。

多くのケースで避難を契機に慢性期に疾患が悪化していたが、一方で災害からある程度時間が経過してから死亡するケースも多く、災害に関連したアルコール性疾患は見逃されている可能性が示唆された。